

十月二十二日

明日の「批評と理論」小委員会の「磯崎新一九六八年」(仮)及び、二十八日の「技術と歴史」の会での私の「開放系技術について」のレクチャーは共に、気合いを入れて臨むつもりだ。一つの峠だな。六〇代の仕事の出発としたい。技術と正面切って言えるかどうか不明ではあるが、開放系デザインと言い切るにはまだ蓄積が過小である。

午前中は杏林病院で眼科の検査。良好であるとの事。そう言われても、何か自身の実感としては良くないのである。河野鉄骨による世田谷村改修すむ。ゆっくり姿形が変ってくれると良い。十五時より十九時前まで設計製図。その後若干の打合わせ。二十一時半迄、開放系技術レクチャーの準備。M1に手伝ってもらい、小ゼミの様相を呈してきた。東大での伝説的なワックスマン・ゼミナールの写真も入った。只今二十二時京王線新宿。

十月二十三日

何とか煙草は止めたいと思いつながら、それが出来ずに吸い続けている。最近の質量ともに過重になった。一時煙草を吸いたい時はもらい煙草にしようかと、変な方法を思い付いて実行した。周りには迷惑しただろう。この男何て奴なんだと思われたかも知れぬ。その恥ずかしさの連続の中で煙草は自然に止められると考えた。これが一向に駄目で、乞食さんの如き、もらい煙草状態が続いた。

今は夜半、早朝に近くの自販機に買いに出る。どうしようもない。しかし、止めたいのだ本当に。八時、それ程の覚悟もなく、これを最後の一本にしようかと、三本連続して吸った。

来週は激しい日々になりそうだ。

今日は夕方、磯崎アトリエで鈴木博之先生と共に磯崎さんに会う。批評と理論の会の、まとめをする。大方の枠組みは予測しているが、論客中の論客を相手に、そうスナリと話しは展開しないであろう。

十六時半六本木磯崎アトリエ近くのコーヒーショップで今日の話しの私なりのフレームを考える。十八時アトリエ。三回程地震でゆれて後、開始。二〇時半終了。近くのレストランで会食。二十四時過世田谷村に帰る。結局、話しは今日だけでは修了せず、十一月にもう一度という事になった。先程の揺れは新潟の大地震であった。災害が続く。